



2007年春、福岡市南区の高台に、5階建ての賃貸マンション「アイ・ピー・ピー・ウィッシュ長丘」が完成した。不動産開発の廣田商事(福岡市)が「もう一人、子どもを育てたいと思えるように」と企画した子育て支援マンション。1階に保育園を設置した。

「子育て支援マンション」は子育てしやすい設備、サービスに、自治体や民間企業が認定制度を設けるなど、運営際の付加価値として広がりつつある。ただ、中心は分譲マンション。「子どもの成長に合わせて入居、退去できる」(同社)賃貸物件は全国でも珍しいという。

保育園(キッズ・キッズ長丘)には、3歳未満を中心に25人が通う。マンションに住む子のほか、近隣からも受け入れられる。学童保育としても利用できる。

「そのまま出掛けられるのが

子育て支援マンション



住民が通る駐車場から保育園がのぞける

27世帯が入居するが、子ども

には、年4回のイベントも大きな役割を果たす。七夕やハロウィンには、マンションに住む小学生や近隣住民も参加。住民同士や保育士が顔を合わせる機会になる。18日には恒例のクリスマスパーティーが開かれた。

棟内保育園が住民結ぶ

便利」という通り、マンション入り口のすぐ隣。保育園の大きな窓が駐車場に面している。保育士の鳥飼あずささん(26)は「小学生が『家の鍵を忘れたからちょっとおらして』とやってきたり、乳幼児のいるお母さんが園の様子を尋ねてきたり。窓からいろんな人がのぞいてくれますね」と話す。

園が地域に広く認知されるのはいない家族もいる。ただ、入居時に必ず、子育て支援マンションのコンセプトを説明するという。「地域ぐるみで子育てをしてほしいし、夜泣きや足音などお互いさまの気持ちも必要ですから」と廣田商事の担当者。

3歳と2歳の子がいる主婦(30)は、第2子の妊娠中に入居。つわりがひどく、「上の子をちょっと預けたいな」と考えた。今は一時保育を利用する。それ以上に助かるのが、子どもを通じた近所付き合い。同じ階に住む小学生が子どもの面倒

を見てくれたり、母親同士で集まったり。妊娠中も随分助けられた。「前のマンションでは隣に誰が住んでいるかも知らなかった。こんなに近所付き合いをしたのは初めて」。建物の設備だけでなく、住む人のつながりもまた「子育て支援」の資源になっている。(畑中知子)



●マンション入り口(右)のすぐ隣が保育園の保育園で開かれたクリスマス会。園児の保護者だけでなく、マンション居住者なども参加して楽しんだ。



住

第3日曜は 生活面の白曜版は週替わりテーマでお届けします。第1週「衣」、第2週「心」、第3週「住」、第4週は「食」を特集します。